

QSK 一人は皆のために 皆は一人のために

福岡県脊髄損傷者連合会
2018年10月10日

わだち

No. 210

福脊連ホームページアドレス www.normanet.ne.jp/~ww101926/

「保守、革新を乗り越えて、県民が一つにならなければ、日米

政府という絶大な権力と闘えない」。二〇一四年九月、翁長は、イデオロギーよりアイデンティティーに基づく「オール沖縄」で闘っていることと訴え、知事選出馬を表明した。その頃、普天間基地移設問題は、新たな局面を迎えていた。現職の仲井真多知事(当時)が、名護市辺野古にある米軍キャンプシユワブ沿岸の約一六〇ヘクタールを埋め立てる計画に承認したのだ。< 辺野古に基地ができる< 国固有地になる。今後この辺野古基地には、私たちの自己決定権が及ばない。一〇〇年も、二〇〇年もそこに基地を置こうとしたら国の思うままだ」国固有地となった基地が、どう使われようが、沖縄県民は物が言えなくなる。

『保守と革新に分かれて白黒闘争している場合じゃない。そんなことをしているから、上から見て笑っている人がいるのじゃないか』この言葉を聞いてドキッとした。翁長は、権力の側にいたときから、ずっと気が付いていたのだ。島は事あるごとに二分され、対立を強いられるけれど、その対立の現場にはいつも、沖縄の人たちを分断し、負担を押し付けている人々はいない、ということ。辺野古に足を運ぶと、座り込みを続けている人たちが、プラカードを持って沿道に並び、迎えた。街宣車が村の小さな路地を通ると、家の中から、オジヤオバアが出てきて、拜む場面さえ見られた。こうして翁長は、沖縄のリーダーになった。あれからわずか四年、誰がこんな最期を想像しただろうか。翁長の知事生活は、屈辱と苦悩の連続だった。長年、一緒にやってきた政権の中核は、裏切り者ばかりに冷遇した。公約通り、辺野古阻止に向け、仲井真前知事が行った埋め立て承認取り消しなどに踏み切ったが、法廷闘争では負けの

《わだち目次》

!この国の行方・・・の問	い!(10)	・・・1P
司法と福祉の架け橋について考える(一)	・・・6P	
貧乏暇あり	・・・9P	
ひとみらい交流ウィークであい・ゆめ広場	・・・11P	
災害時の要配慮者支援	・・・12P	
公務部門における障害者雇用に関する基本方針	・・・15P	
「障害者週間」街頭啓発イベント	・・・17P	
今月の時事	・・・18P	

司法と福祉の架け橋について考える(一)

文化体育部長 久保 親志

はじめに

罪を犯した障害者の中には、出所後も、障害への適切な支援を受けられずに時を過ごし、結果として再犯を繰り返してしまつ人も少なくありません。

出所後の障害者や高齢者の再犯を防ぐためには、裁判から矯正施設といった、繋ぎ目で福祉の支援を行うことが重要なのです。そこで、「地域生活定着支援センター」が発足したのです。地域生活定着支援センターは、刑務所を出所した障害者(知的)や高齢者の社会復帰を促し再犯を防ぐため、平成二十二年七月に、保護観察所と協働し、厚生労働省の補助事業「地域生活定着支援事業」(現在は地域生活定

着促進事業)を根拠として設置が始まり、平成二十四年三月に全国に四八か所(北海道は札幌、釧路の二か所)に設置されたのです。累犯障害者・高齢者を支える次のステップに踏み出しています。

その、成功例は、下関駅放火事件を起こした福田九右衛門氏です。NPO法人「抱樸」の理事長で牧師の奥田知志氏の支援を得て、仲間と共に安定した生活を送っている姿が、昨年十月にNHKテレビで放映されています。実名報道でした。一年前、彼と出会っていた私は、嬉しかったです。

シンポジウムに参加して

一昨年九月十日(土)、西南

学院大学チャペルを会場に「下関駅放火事件から十年・累犯障がい者・高齢者を支える包摂型地域創造シンポジウム」が開催され、参加しました。基調講演の講師は、村木厚子氏(元厚生労働省事務次官)でした。

(講演中の村木厚子氏)



村木氏は、「郵政不正冤罪事件」で大阪地検特捜部に逮捕勾留された経験を持ち「検察の在り方検討会議」で意見を述べています。

演目は、「共生社会を創る」です。その、講演で着目した

のは「負の回転ドア」の項目でした。周囲の無理解で必要な福祉サービスが受けられない。居場所がなく、孤立する。

そして罪を犯し、家族や周囲との関係が崩壊・破壊する。孤独や生活苦が深まり、罪を繰り返す。犯罪を繰り返す障害者や高齢者には、こうした「負の回転ドア(連鎖)」があると指摘された。支援センターは、罪を償った直後から必要な福祉サービスにつないで負の連鎖を断ち切る支援を展開する働きをします。

続いて、「福岡県地域生活定着支援センター」の活動報告がありました。福岡県地域生活定着支援センターは、平成二十二年七月に設置されました。北九州市でホームレス支援などを続けるNPO法人「抱樸(ほうぼく)」(奥田知志理事長)が福岡県の委託を受けて活動している。小畑孝仁七

貧乏暇あり

北九州支部 白川長廣

九州ブロック大会参加のため、日田市へ行ってきた。

車で行くか電車で行くか直前まで迷った。日田彦山線は先だつての水害で途中、不通になっている。久留米経由だと距離はあるが行ける。車か電車か散々迷ったが古いほれ車の信頼性と電車の確実性・楽さを比べて電車を選択した。2時間半の車中は読書(この言葉、高尚)をしながら過ごしたので、あつという間だった。久大線は、ディーゼル車で乗降はスロープが必要。しかし、日田駅は建て替えられていて、エレベーターが設置され(以前行った時は昇降機だった)、また、駅舎も日田杉をふんだんに使った立派なものになっていた。



いつものように

まずはトイレの視察と使用。これも日田杉を使った立派な多目的トイレが設置されていた。使用中だったので待つていると高校生らしい若者が出てきた。「一般用が使えるのだったらそちらを使ってください」と言葉をかける。「すみません」と言って去っていった。不適切

使用だったとは思っているようだ。駅前にバスセンターがあるので覗いてみ



る。計画では途中見物しながら会場まで行く予定だったが市内巡回バスがあり、しかも低床バスだったのでバス利用に変更。待ち時間の間に周辺を散策。静かなまちである。日田は盆地で平地であると思っていたが緩やかであるが傾斜地であった。バスの待合室は傾斜になっ

た。

ひとみらい交流ウィーク であい・ゆめ広場

北九州市西部障害者福祉会館の文化祭11月11日(日)北九州市の黒崎コムシティ5階、北九州市立西部障害者福祉会館で行われた、「であい・ゆめ広場」に会館利用各団体として参加要請があり、車いすユーザーの我々が直面している、バリアフリーやバリアフルを実感できる、「車いす体験」を福脊連北九州支部で参加実施しました。日本ウィルチエアー(株)九州支店副店長から、シユニア用車椅子を借り、会館内通路壁には、擦れ追突防止に段ボールで養生して、1.5cm、長さ60cm位の角材で何気ない段差、カラーコーンでS字を作り、ブルーシートを置き、スロープを登り台にして、上がりスロープで降り、コーンで回転し戻

るコースで、自力走行や介助走行の仕方など、障害の区別なく障害のある人、来館者の沢山の方に、体験して頂きました。スタート地点に置かれた角材(段)には、体験された方々が通過できずに困惑していました。



日常遭遇する例えて、横断歩道から歩道に移る際の段差や、店舗などの出入り口、小石や街の歩道を景観で敷き詰められた飾り石のはみ出しで、転倒もあったことの体験談を話したり、上り坂は自力で登り始めても、途中で先に進まず後方に下がり、後ろに転倒しそうな感じにもなり、力の

入れ具合、後方転倒防止策の身体バランスについて、下り坂での体験では皆に恐怖心があり、自身で下る方法やプリーキ方法や感覚、介助の方がいる下ろし方の違いを理解をして自力介助の体験をしてもらいました。ブルーシートが敷かれている場面では、投票所、避難場所、工事現場、イベント会場内など、何処で敷かれているかも想像してもらい、走行し難い経験や、走行不能の場合や戸惑った時の迂回路が遠回りになるなどの経験談を話しながら、走行方法を実演し、バリアフリーやバリアフルを理解体験して頂きました。メイנסテージ会場では、各ダンスもあり、寄贈贈呈式や大抽選会も行われていて、各利用団体の体験コーナーや出展ブース、軽食販売などもありました。来年も同時期にであい・ゆめ広場

を開催予定で、今回より広いスペースを確保して、「車いす体験」を会館担当者を増員して、障害のある方・関係者・地域の方と交流していきたいと思えます。体験者からの質問で、車いす使用者が困っている様子を感じた時に、どう対応、対処していいか、解らないなどの質問がありました。



私の場合は、お互いの言葉の掛け合いで、状況を把握していただいた上で、私の意思を聞いてもらい、手助けをしてもらうようにしています。体の一部であるから、大切に扱ってくださいとも(笑)

北九州支部 宮岡 健

近年の災害は今までの常識では予測不可能な状況となっています。私たちも災害に対する心構えを供えておかなければなりません。県社会福祉協議会発行の「障がい者福祉情報 150号」に災害に対する記事がありましたので紹介します。(抜粋)

災害時の要配慮者支援

「要配慮者」とは、病気や障がいなどで災害から身を守ることに何らかのハンディキャップがあり、周囲の支援が必要になる人たちです。災害が発生すると、こうした人たちに被害が集中する傾向があります。要配慮者の被害を最小限に食い止めるためには、家族や地域住民による積極的な支援が欠かせません。地域全体で協力して、要配慮者を災

害から守りましょう。

県内の要配慮者数の内障がいのある人(障害者手帳交付者数)が約31万人といわれています。要配慮者のうち、災害時に自ら避難することが困難なため、避難行動に特に支援を必要とする人々を「避難行動要支援者」といいます。具体的には、施設入所者を除く次のような人たちです。

- ① 移動が困難な人
- ② 日常生活上、介助が必要な人
- ③ 情報を入手したり、発信したりすることが困難な人
- ④ 精神的に著しく不安定な状態をきたす人。

近年、平成28年(2016年)熊本地震や平成29年7月九州北部豪雨など大規模な災害が発生しています。災害は、とき・ところ・ひとを選びません。被害を最小限に抑えるためには、日頃から防災意識を待ち災害に備えるとともに

地域ぐるみで防災体制を確立していくことが重要です。

本号では、災害時の要配慮者支援について紹介します。

要配慮者に心じた備蓄品を用意しましょう

要配慮者の場合、障がいの状態などに応じて災害時に必要な物は異なります。以下の主な例を参考に、普段から災害時を具体的に想定した備えを進めることが大切です。

肢体に障がいのある人

- ・ 簡易トイレ
- ・ 紙おむつ
- ・ おんぶひも(避難用、担架や毛布)
- ・ 杖
- ・ 歩行器
- ・ 補装具
- ・ 電動車いす用バッテリー(充電器)など
- ・ お薬手帳(薬の説明が書いてあるメモ)

てあるメモ)

- ・ 普段服用している薬
- ・ かかりつけの医療機関や薬のメモ(薬の種類や飲み方)

地震発生時の避難行動

突然の地震が発生したとき、要配慮者は自分の力だけでは身を守ることが困難です。災害時の要配慮者の安全確保には、地域全体による支援が欠かせません。もちろん、要配慮者自身も、できる範囲で自分の身の安全確保に努めなければなりません。要配慮者、支援者の双方が災害時にできることを理解しておき、迅速な避難行動がとれるように備えましょう。

また、倒壊した家に閉じ込められたり、家具などに挟まれて動けなくなってしまうたりして救助を求めるとき、声だけでは限界があります。

笛やブザーを準備している

公務部門における障害者雇用に関する基本方針

平成30年10月23日公務部門における障害者雇用に関する関係閣僚会議(坂本一憲)

・各府省は、通報対象となる障害者の範囲やその確認方法等が、適切に取り扱われているかを確認することができるよう、手引きにしたがって、通報対象となる障害者の名簿を作成するとともに、障害者手帳の写し等の関係書類を保存する。

・各府省の人事担当部署は、毎年度、各部局から報告される任免状況について、通報対象となる障害者の範囲や、その確認方法等が適切に取り扱われていることを確認するため、適宜対象部局を選定して障害者手帳の写しを实地に確認すること、障害者の任免状

況の増減理由に関する、ヒアリングを行うこと等、内部点検を行う。

・また、不適正な事務処理を未然に防止するため、通報対象となる障害者の範囲及び、その確認方法、法定雇用障害者数の算定の基礎となる職員数の計上、通報書の作成などに関し、「障害者の任免状況の通報に関するチェックシート」を活用しながら、複数の職員により、チェックするなどの体制強化を図る。

・上記のほか、各府省は、職員自らが通報対象となる、障害者として計上されているか確認できる仕組みの整備、各部局の担当者向け研修会の実施、各府省におけるグループウェアの活用等による手引き等の情報の共有等、それぞれの実情に応じた、方策を実施する。

イ. 地方公共団体における再発防止のための取組「都道府県の機関、市町村の機関、都道府県等の教育委員会及び、独立行政法人等における、平成29年6月1日現在の障害者の任免状況等の再点検結果について」(平成30年10月22日)の結果等を踏まえ、地方公共団体における再発防止のための取組について、本基本方針を参考にしながら、必要な措置を講ずるよう、厚生労働省及び、総務省より要請する。

ウ. チェック機能の強化に向けた更なる検討、厚生労働大臣による国の行政機関等における、障害者の任免状況に関するチェック機能の強化について、引き続き、法的整備を視野に入れた検討を行うとともに、国の行政機関等における障害者の任免状況について、

これまで実施してきた厚生労働省による一括した、公表と併せて、各機関における説明責任を果たす観点から、各機関が自ら障害者の任免状況を公表する仕組みを検討する。

2. 法定雇用率の速やかな達成に向けた計画的な取組

(1) 障害者採用計画の策定
法定雇用率を達成していない府省は、まずは年内の達成を目指し、それが難しい場合には、障害者雇用促進法の下、平成31年末までの障害者採用計画を策定し、当該計画に則って法定雇用率の速やかな達成に向けた取組を進める(法定雇用率を達成していない府省等における、障害者採用計画は別紙)。その際、身体障害者、知的障害者、精神障害者のそれぞれの障害特性等を適切に踏まえ、広く働きや

福岡青連活動日程及び経過報告

8月23日 北九州支部
車いす相談会 TOTO
シヨールーム(小倉北区)

8月28日 筑後支部 わだ
ち発送作業の打合せ
クローバープラザ

9月27日 北九州支部
支部役員会

9月27日 北九州支部
車いす相談会 TOTO
シヨールーム(小倉北区)



会費納入のお願い

会員・賛助会員の皆様へ、お願いです。皆様も、ご承知のとおり、当会の運営は会費で行っております。

会費が未納の方は、左記口座まで納入して、いただきますよう、お願い致します。

■会費 7200円

※減額対象者あり

■賛助会員

【A】10000円

【B】7200円

【C】3000円

■口座 郵便振替口座

■口座番号

01760 3 28925

■口座名

福岡県青連損傷者連合会

※他の金融機関からの振込用口座番号 ゆうちょ銀行 一七九支店

当座00228925

「障害者週間」

街頭啓発イベント

毎年12月3日から9日までの1週間は「障害者週間」です。

北九州市では毎年「北九州市障害福祉団体連絡協議会」とともにJR小倉駅で「障害者週間」街頭啓発イベントを行っています。今年は12月1日に実施しました。市長を先頭に市議会議長、議員の皆さんと共に啓発文の書かれたシールを貼った携帯カイクを配布しました。

会場には、北九州市人権の約束事運動マスコットキャラクター「モモマルくん」が参



啓発活動を終えモモマルくんとの記念写真を撮る宮岡北九州支部長

加してくれました。

北九州市も『障害者差別解消条例』がスタートして1年「障がいを理由とする差別をなくし、安心していきいきと暮らしていける共生社会の実現」に向け取り組んで

きた
いと
思い
ます。

《 今月の時事 》

『米国の政治を変えることができるのか』～！武器を外国に販売する調整を担う国防安全保障協力局(DSCA)によると、米国の軍需企業は2018年会計年度に550億ドルの武器を諸外国に売っており、前年度比較で33パーセント増と飛躍ぶりだ。9月18日米国上院議会の討論集結動議により6740億ドルの軍事費支出案が92対8で可決された。2019年9月30日までの会計年度で、軍事費及び諜報その他に対する国防総省への歳出額は国家自由裁量予算の約55パーセントを占める。この法案に反対したのは、2大政党に属さず独立を貫くパーモント州のバーニー・サンダース議員と七人の共和党議員(モンタナ・アイオワ・オクラホマ・ユタ・ケンタッキー・ジョージア・ペンシルバニア)だけだった。10月19日、バーニー・サンダースはジョン・ホプキンス大学高等国際問題研究員で、『独裁主義者と戦う世界的民主運動の構築』という題名の演説を行い、革新市民運動の国際的な連帯を呼びかけた。サンダースは、「第二次世界大戦後に軍事産業複合体の肥大化によるアイゼンハワー大統領の歴史的な退任演説に言及し、現在、米国内の経済・教育・福祉・医療問題・と外交・軍事政策がいかに密接につながっているかを説明した。世界全体で費やされる軍事費は一年につき、約1兆7000億ドルにも上がる一方、その10パーセントである1750億ドルを毎年20年間費やすことができれば、貧困を廃絶することができます。米国はアフガニスタン戦争を17年、イラク戦争を15年継続してきました。1年に7000億ドルもの軍事費が軍事産業に投入されました。『富も技術も飛躍的に成長する時代に生きるわたしたちには、みんな穏当な暮らしを営める世界を作り出す潜在的力があるはず。責任をとらない企業という権力勢力が、私たちを分断し、お互いを対立させるよう仕向けてきました。こういった権力勢力は国境を越えて協力しあってきました。私たちが国境を越えて団結する必要があります。』(「民主党を変革しつつある社会主義たち」・宮前ゆかり コロラド州ボルダー在住、フリーランスのリサーチャー、翻訳家・月刊誌「世界12」岩波書店)から抜粋)・全文を読みたい方は連絡を。さらに、**バーニー・サンダースの勢いが止まらない 若者の熱い支持は世界を変えるか**』との入力で閲覧できます。トランプだけではないU.S.Aが視えてきます。～国会では大臣が、低俗的な醜態をさらけ出していますが、国会とは何でしょう!! さあ～て～さあ～どうする。(しん)

- 編集 福岡県脊髄損傷者連合会 会長 藤田 幸廣
〒816-0804 福岡県春日市原町3丁目1-7
福岡県総合福祉センター(クローバープラザ)内6階
TEL&FAX: 092-592-4528
E-Mail: fukusekiren-kasuga@cello.ocn.ne.jp
- 発行 九州障害者定期刊行物協会 頒価100円(会費に含まれる) 〒812-0024 福岡市博多区綱場町1-17
福岡パーキングビル4階

編集後記
例年より、暖冬といわれています。2018年も残りわずかとなりました。来年もよろしく願います。
坂本



この広報誌は、共同募金の配分金を受けて発行しています。